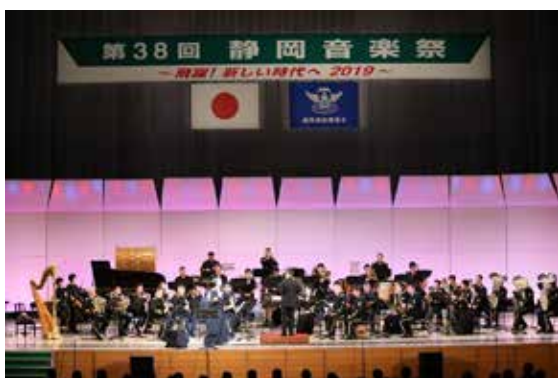




4000人が入隊・入校予定者を激励



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、1月26日（土）、グランシップ（静岡市）で行われた静岡県防衛協会主催の「第38回静岡音楽祭」の開催を支援した。

同音楽祭は、昭和57年に「軍歌祭」として始まり、今年で38回を数え、毎年約4000人の聴衆を集めている。また、3年前から「入隊・入校激励会」も併せて開催し、静岡県内各地から自衛隊にはばたく若者への激励を行っている。

音楽祭は、海上自衛隊東京音楽隊（東京都世田谷区）の三宅由佳莉3等海曹による国家独唱で始まり、第1部の「入隊・入校激励会」では来賓の国会議員や静岡県副知事などより入隊・入校予定者への激励の後、岩屋毅防衛大臣からのビデオメッセージによる激励の言葉が送られた。

最後に入隊・入校予定者を代表して、防衛大学校に入校予定の浅井應孝君が「入隊・入校後は、日々の訓練を通し幅広い教養や豊かな人間性を養い、さまざまな状況下で耐えうる精神力と体力を身に付け、責務を全うし、どんなことが起きようとも、この国と国民を守る自衛官になります」と力強く誓った。

第2部では、陸上自衛隊第34普通科連隊らっぱ隊（御殿場市）、常葉大学附属中学校・高等学校吹奏楽部（静岡市）、航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松市）、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地雲海太鼓（御殿場市）、海上自衛隊東京音楽隊がそれぞれの特色を生かした演奏を披露し、入隊・入校予定者の明るい前途に花を添えた。

音楽祭の最後を飾った海上自衛隊東京音楽隊は、静岡県にゆかりの深い楽曲の演奏や静岡市出身で常葉大学附属中学・高等学校卒業生のクラリネット奏者、望月美佐2等海曹がステージ中央で演奏するなど、最後まで会場を盛り上げた。

静岡地本は、今後も自衛隊を目指す若者が意気揚々と入隊・入校できる激励会を支援するとともに、自衛隊による音楽演奏をもって自衛隊の任務や活動への理解促進や親近感向上を進めていく。

高校1、2年生に「職業としての自衛隊」をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は1月30日（水）、県立金谷高等学校（島田市）で開催された進路説明会に参加した。

この説明会は、同校の1、2年生が将来就きたい仕事について考えるために行われたもので、静岡地本は生徒たちに自衛隊を知ってもらい、職業選択肢の一つとして考えてもらえるよう、自衛官の仕事について丁寧な説明を行った。

説明会は、同校の体育館に多数の大学、専門学校、企業がブースを出し、そこに生徒たちが訪問する形で行われた。自衛隊ブースには男子生徒16人が集まり、陸・海・空それぞれの説明や広報官の経験談を熱心に聞いていた。

進路についてはまだまだ模索中という生徒がほとんどであったが、生徒からは「どのような活動や訓練がありますか」「訓練はきついですか」など、普段見ることができない自衛隊の訓練について真剣な質問が寄せられた。更に、「自由時間はありませんか」「休日は何のように過ごしていますか」などと自衛官の普段の生活にも興味を示す姿も見られた。生徒たちは、自衛隊という存在は知っていても実際にどのような仕事をしているのかあまり知らず、自衛隊の中には多種多様な職種があることを説明すると、全員が驚いていた。

静岡地本は、今後も説明会などを通じて自衛隊を知ってもらい、自衛官はやりがいのある職業であることを伝えていく。